



の世界に生きています。建前できれいな言えませんが、本当にそう思っているのかと問うた時、反対のことしかないことが多いのです。本音建前は大人の不純な心です。純真な子ども達を不純な心で育てると、子ども達の心の成長に障りが出てきます。心豊かな子は育ちません。「ともこ」<sup>けいしやう</sup>という言葉を入れてるのは、建前で育てることの警鐘を鳴らしているのです。

私はわが子に対する気持ちと他の子に対する気持ちは異なります。他の子に対しては優劣の心をもって、この子はいいい子、あの子は悪い子という価値判断をしてしまっているのです。わが子であるならば、いい子悪い子を超えて、全てを受け止めるのが親ですね。しかし、他の子に対して優劣をいつてしまっているのです。

比較の心に生きている私達ですから、あの子は可愛い、この子はそうでない。あの子は利発な子だ、この子はドンドンだと、言っている。しかし、自分の子がそのように他の人から悪く言われたら、どう思いますか。優劣の優である時は気分がいいが、反対はとても傷つくのではないでしょう。この問題は、わが子だけの問題ではないです。私自身においても、他の人をいい人、悪い人と言う。そのことは他の人から自分のことをそのように言われているということです。

比較する心が悪いばかりではありません。向上心につながることもあります。それ以上に厄介な心なのです。ここに私達が生きる上で常に苦しみに出会わなくてはならないという宿命的な意味を持っています。人間関係で苦しむことが多い私達ですが、あの人がいるから自

分は苦しんでいると、あの人さえいなかったら・・・と思う私ですが、そうでしょうか。あの人がいなくなってもまた私を苦しめる人は現れるでしょう。つまり、その苦しみの根源は思いもよらない私自身にあった、私の比較する心だったということです。

そういう私の心に気づくと、自ずと今までと違った見方が私の中から出てきます。保育士が園児に上から教えてやるといふのは違うのではないか。むしろ、反対に園児の純粋な心に教えられる、ということではないでしょうか。親さんもそうです。オレが育ててやっていると、気持ちから、わが子に育てられていくことに気づきます。わが子がいるから、時に気に入らない夫、妻であっても一緒に生活できるので。わが子のお陰です。

お母さんと同じにはなれませんが、仏教の精神をもって子どもたちに関わって、子どもたちとともに保育士自身も成長していく保育園でありたいと思っております。

### お知らせ

別院の山門の南側塀の修理が5月中旬頃から始まります。近づく危険ですので、柵の中には絶対入らないようお願いいたします。夏すぎ頃までの工事です。

「園長だより」を竹鼻保育園のホームページに載せました。ヤフーからの検索はうまくいきません。グーグルからの検索の方がいいようです。トップページの写真の下にアイコンがあります。(特に4号を読んでいただきたいです)